International Summer Camp 2018

プロジェクトメンバーを含む慶應義塾大学の学生10名が長野県木曽郡木曽町開田高原を訪問し、2018年8月6日から9日の4日間に渡ってワークショップを実施しました。長野県木曽郡木曽町立開田中学校の全校生徒28名のうち半数以上である15名が参加しました。中学生は、大学生と共に開田高原を巡る中で、開田高原の課題を発見し、解決方法を模索するとともに、地域の魅力を再発見しました。

また、成果物として、より多くの人との協働を目的に、プロアーティストのSHOGEN氏を招待しともに地域の魅力を発信するアフリカンアートを作成しました。

活動を通して、「自分では当たり前のことが、都会から来た人にとってはとても良くてたまらないものなんだなーと改めて考えることができました。」という声を聞くことができました。

目的
- 自分たちの郷土で様々な背景を持つ人と交流することで、異文化をそれぞれ知り、共に理解する
- 活動を通して、中学生が自分の文化や故郷を見つめ直し、開田高原への誇りを持つ
- 異文化交流を通して、中学生の視野を広げる

活動テーマ
「問題発見・問題解決」

2017年度は、「地域の魅力発見」というテーマをもとに、中学生は開田高原の魅力を様々な視点から発見しました。

それを踏まえ今年度は、魅力の発信だけでなく、自分たちの地域にはどのような問題があり、中学生の立場からどう解決できるかを考え、「問題発見・問題解決」をテーマに活動しました。

地域を見つめることで見えてくること

DAY 1

インタビューワークショップ：インタビューし合い、共通点を模索することで初対面の大学生と中学生がお互いを知り、打ち解けることができました。

ドラえもんワークショップ：もしもドラえもんの道具があれば、どんな開田高原を描けるかグループごとに考え、未来の地域の姿から現状を見つめ直すことができました。

DAY 2

地域散策：グループごとに計画を立て、1日目のワークショップで気づいた地域の良さや課題を実際に自らの目で確認することができました。

地図作り：模造紙に散策範囲の地図を描き、散策を通してわかったことや気づいたこと、考えたことを付箋に貼ってまとめることができました。

DAY 3

散策振り返り：散策での気づきをどのように未来の開田高原に活かすことができるか、考えました。どんなことを地域の方に伝えたいか様々な気づきを深めることができました。発見した地域の課題は、本当に解決しなければいけないものなのか、今のままで発想の転換をすればいいのではないか、ということに気づき、発表したグループもありました。

DAY 4

最終アート作成：4日間の集大成である大きな絵画を参加者全員で製作しました。ティンガティンガという6色のペンキを使ったアフリカンアートをテントの屋根に描きました。今までのワークショップや散策に行って気づいたことなどを活かしながら、開田高原の魅力を形にできました。

成果発表会：地域の方に向けて作品を紹介し成果発表をしました。絵画に込めた思いを語ったり、それぞれのグループが散策や開田の制作過程でどんなことに気づき考えたのか、来場者に向けて自分の言葉で発信することができました。

International Winter Camp 2018

2018年11月23日から24日の1泊2日で、開田中学校有志生徒を対象に、International Winter Campと題した東京研修を企画・実行しています。地域外に出ることで、地元のことや自分のことをより見つめ直す機会になるのではないかと期待しています。内容としては、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの研究発表会（Open Research Forum）の見学、大学教員によるセッションの参加、学校祭見学、東京の中学生との交流、大学生によるワークショップなどを予定しています。

異文化交流を通して、東京と長野、それぞれの中学生がお互いを知ることで視野を広げることであったり、日本の国内における異文化について触れ、理解する・異文化を知ることで中学生が自分の文化や故郷を見つめ直し、木曽町への誇りを持つきっかけを作ることを目的とした活動です。

昨年の活動の様子

開田中学生に東京に来てもらいます

Study Support

開田中学校からの要望により、2018年度夏活動・冬季の中期滞在の際に大学生が中学生の勉強をサポートする学習支援を実施しました。中学校や開田支所を使わせて頂き、開田の小・中学生20人程を対象に個人個人の特性に合わせた指導を行いました。

学習支援では、中学生の基礎学力向上により、将来の選択肢を増やすことや、中学生の学校・家庭外の居場所をつくることを目的としています。活動は、長期休暇を中心に今後も継続的に行なっていく予定です。